

大阪府循環器疾患予防研究委託業務

府民の健康づくりを支援する
シンクタンク機能の役割
(令和5年度)

大阪健康安全基盤研究所

令和6年3月

はじめに

大阪府循環器疾患予防研究受託業務は、令和５年度より大阪がん循環器病予防センターから地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所(以下、「当法人」という。) 公衆衛生部疫学解析研究課に移管された。当法人は、平成 29 年 4 月に大阪府と大阪市の地方衛生研究所が統合し発足された。そして、公衆衛生部疫学解析研究課は、疫学調査研究機能の強化として、感染症分野以外にも生活習慣病の分野も取り入れ研究の裾野を広げるために令和 5 年 4 月に発足された。今年度、大阪府では、平成 30 年度から開始している第 3 次大阪府健康増進計画の後継計画として、令和 6 年度から 12 か年予定の第 4 次大阪府健康増進計画を策定中である。また、令和 7 年度には「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにした大阪・関西万博が開催される予定である。ポストコロナ社会の中で少子高齢化、人口減少など社会情勢の変化などは急速に進んではいくが、その中でも府民の健康状況と課題を把握して、解決を図るための取り組みを府民の健康づくりを促進するためにこれからも努めることが重要である。今後も関係者各位の多大なるご支援をお願いしたい。

当法人の役割の一つとしてのシンクタンク機能を果たすべく、収集した情報や移管前から現在までに得られた知見を加えての情報発信に努めている。この事業内容は、大きく三つに分かれている。第一は、人材育成、情報発信及び循環器疾患対策に関する施策の提言である。つまり、大阪府及び市町村などが主催する審議会や協議会などの場において、人材育成、情報発信及び循環器疾患対策などへの具体的な取り組みの方向性を示していくことである。第二は、循環器疾患の予防に関する情報等、健康情報の発信である。循環器疾患を予防する知識や情報等を、ホームページを通じて発信するほか、民間企業等と連携し、健康知識等の普及のための資材作成への協力など、健康情報の発信を強化することである。第三は、府民の健康指標のデータ更新、概要版の提示である。国及び関係機関が公表している健康関連指標の収集や、健康づくりに関する実情把握調査の実施により得られた結果を分析して資料にまとめ、ホームページを通じて公表していくことである。このことにより、大阪府並びに市町村の施策立案に役立てられるようにする。

本報告書は、当法人が令和 5 年度においてシンクタンク機能として果たしてきた役割および今後の方向性についての報告である。

目 次

I. 大阪府民の健康づくりに資する提言.....	1
1. 審議会、協議会や「健康づくり」施策の推進における提言.....	1
II. 市町村等の支援	2
III. 情報発信	3
1. 講演活動	3
2. ホームページ	4
IV. 人材育成活動	5
1. 大阪府内保健医療関連団体および大学における研修会・講義.....	5
V. 研究班活動および府外活動.....	6
1. 研究班活動	6
2. 府外活動	7
3. 学会発表	7

I. 大阪府民の健康づくりに資する提言

1. 審議会、協議会や「健康づくり」施策の推進における提言

大阪府では平成 30 年 10 月「大阪府健康づくり推進条例」を制定し、そのため健康寿命の延伸・健康格差の縮小を目標に、府民の健康づくりの一層の気運醸成を図るため、『健活 10』というキャッチコピーとロゴマークを新たに作成し、また、2025 年開催の大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、健康関連分野への影響は大きい。これらの施策を円滑に進めるため、健康づくり課との会議を定期的の実施している。また、各種計画の円滑な推進のための会議も随時行い、その啓発、普及に努めており、国保連合会との協力によっても助言等も実施している。

大阪府の審議会、協議会等の実績

名称	主催者	実施日、回数等	参加者
大阪府食育推進計画評価 審議会	大阪府健康医療部健康推 進室健康づくり課 総 務・歯科・栄養グループ	3 回	清水悠路
大阪府国民健康保険団体連 合会保健事業支援・評価委 員会、WT による検討会	大阪府国民健康保険団体 連合会	評価委員会 4 回 WT 11 回	清水悠路 本田瑛子
地域職域連携推進連絡会	大阪府健康医療部健康推 進室健康づくり課	2 回	清水悠路 吉田知克

Ⅱ．市町村等の支援

全国平均を下回る平均寿命ならびに健康寿命の延伸が現時点で最も重要な課題である。この課題を解決すべく、府内市町村における住民および労働者の健康増進のために様々な取り組みを行っている。

当法人では、市町村の健康増進活動を大阪府から委託された「特定健診・特定保健指導ならびに医療費のデータ分析」、「行動変容推進事業」、「循環器疾患と危険因子のモニタリング及び研究」の三つの事業を通して市町村等を支援している。詳細は、各報告書に譲る。

また、これら三つの事業を通じた市町村等支援の他にも、会議等への出席や保健事業実施のスキルアップにつながる情報提供等への対応を随時行っている。以下、会議等や市町村等からの相談への情報提供内容を示す。

市町村の会議の実績

名称	内容	実施日、回数等	参加者
大阪府ヘルスアップ支援事業（豊能町、忠岡町）	地域課題・原因を地域ごとに分析し、効果的・効率的な保健事業展開を検討し、具体策の推進を支援	7回	清水悠路 本田瑛子 佐々木なぎさ
ヘルスアップ支援推進会議	大阪府ヘルスアップ支援事業での有識者の助言等による効果的な事業実施、展開のための相談、検討	2回	清水悠路 本田瑛子 佐々木なぎさ
八尾市衛生問題対策審議会	衛生諸問題に係る解決策、地域住民の健康保持増進等の地域医療及び保健所の運営について調査、審議	1回	清水悠路

市町村等への情報提供についての内容

対象市町村等	内容
能勢町	汎用性の高い行動変容プログラム「糖尿病対策（糖尿病腎症重症化予防を含む）」の言葉の定義について問い合わせがあり、説明対応をした。
和泉市	行動変容推進事業フォローアップ研修会（令和5年9月7日）の講演で使用されたグラフの使用許可について問い合わせがあり、引用、関連資料の情報源の情報提供をした。

上記以外では、行動変容推進事業に関する媒体（リーフレット）の使用や出展元についての問い合わせに対応している。媒体については、行動変容推進事業等で作成したものやフォローアップ研修会にて提示したものに関する問い合わせとなっている。

Ⅲ. 情報発信

1. 講演活動

市町村や健康保険組合等が主催する住民や労働者向けの研修会・講演会に講師等として職員を派遣し、健康に関する知識の啓発・普及に努めた。また、指導者や事業担当者向けの研修会や会議に講師等として出席し、講演や助言を行った。

研究会・講演会での講演実績

名称	主催者	日程	参加者
関西産研 第 65 回研究会 「動脈硬化指標の評価方法に関して」 「職域における健康診断の機会での禁煙支援」	関西産業健康管理研究協議会・大阪府医師会(共催)	R5. 9. 23	清水悠路 本田瑛子
第 40 回東成区医師会健康展 ポスター展示 「元気を保つためには(フレイル要素と予防)」 「脳卒中や心臓病を予防しよう」	東成区医師会	R5. 10. 12	吉田知克 本田瑛子

2. ホームページ

公衆衛生部 疫学解析研究課のホームページを活用して、循環器疾患および生活習慣病等に関する情報の発信、事業紹介ならびに研究活動の紹介を行っている。

大阪府からの循環器疾患予防に関わる受託事業については、ホームページ内の「大阪府循環器疾患予防研究受託業務」の中で、事業結果と進捗状況を公開している。本年度事業として、保健事業説明会（令和5年5月26日）、行動変容推進事業フォローアップ研修会（令和5年9月7日）の開催に関する内容を掲載した。その他、循環器疾患および生活習慣病等に関する情報（学術論文発表を含む）発信として、ホームページ内の「トピックス」ではコラム、「大安研ちゃんねる」では動画を掲載した。

また、18歳以上の大阪府民であれば誰でも使える無料のスマートフォンアプリ「おおさか健活マイレージ アスマイル」の健康コラムにも、ホームページに掲載した内容の一部を投稿した。

(URL 「大阪府循環器疾患予防研究受託業務」

<http://www.iph.osaka.jp/s016/050/051/progress.html>)

(URL 「トピックス」 <http://www.iph.osaka.jp/s016/000/topix/prevent.ncds.html>)

(URL 「大安研ちゃんねる」 <http://www.youtube.com/channel/UC6CDFWU8NP9P4T61TmI1RMA>)

コラム名称	作成者
8月31日は「野菜の日」	清水悠路 本田瑛子 吉田知克 佐々木なぎさ
11月14日は「世界糖尿病デー」～その1：インスリンの働き～	
11月14日は「世界糖尿病デー」 ～その2：糖尿病の治療をされている方への情報提供～	
<論文紹介>早食いと身長低下との関連	
早食いに注意！！	
最近、いつ体重を測りましたか？	
年末年始の体重増加にご注意を	

動画名称	作成者
8月31日は「野菜の日」	本田瑛子

アスマイル健康コラム名称	作成者
8月31日は「野菜の日」です	本田瑛子
年末年始の体重増加にご注意	佐々木なぎさ

IV. 人材育成活動

1. 大阪府内保健医療関連団体および大学における研修会・講義

公衆衛生分野に興味を持つ大阪大学大学院医学系研究科の大学院生の受け入れを行い、研究所が担う大阪府からの受託事業、健診事業、研究事業についての紹介や研究などを行った。今後は、人材育成の一環として、大阪府、市町村など健康づくり事業に携わる保健師、栄養士などの事業担当者・指導者向けの研修会等において講師として職員の派遣も行う所存である。

研修会・講義の実績

名称	主催者	日程	参加者
大阪大学大学院医学系研究科大学院生 教育指導	大阪大学大学院 (公衆衛生学講座 [健康疫学])	R5. 4-R6. 3	清水悠路 吉田知克

V. 研究班活動および府外活動

1. 研究班活動

当法人の職員は、各種研究班の活動に参加、従事することにより、各フィールドの情報を収集し、特定健診の受診率の向上や健診成績の評価等について、意見や新たな手法を取り入れ、府民の健康増進の普及活動に役立つような研究活動をしている。

研究 期間	研究者 種類	研究班の分類	研究班の課題名	氏 名
2022-24	代 表 研 究 者	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金 助成金) 基盤研究C	甲状腺の有するエネルギー調整 機能の動脈硬化指標への影響の 解明	清水悠路
2023-24	研 究 代 表 者	「放射線災害・医科学 研究拠点」共同利用・ 共同研究 福島④	潜在的甲状腺障害による脳下垂 体における甲状腺ホルモン感受 性への影響の解明	清水悠路
2021-26	分 担 研 究 所 者	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金 助成金) 基盤研究B	大規模コホート研究の統合解析 による認知症予防エビデンスの 研究	清水悠路
2023-28	分 担 研 究 者	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金 助成金) 基盤研究B	壮年期期の社会心理負担と経度 認知障害に関する研究	清水悠路
2023-26	分 担 研 究 者	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構 (AMED) 行動変容指標 に関する研究	生活習慣病予防のための行動変 容を評価する包括的な社会心理 行動指標に関する研究	清水悠路
2023-25	分 担 研 究 者	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金 助成金) 挑戦的件研 究(萌芽)	血液バイオマーカーを用いた栄 養評価による認知症発症リスク 解明の疫学研究	清水悠路
2023-25	分 担 研 究 者	厚生労働科学研究費 補助金(循環器疾患・ 糖尿病等生活習慣病対 策総合研究事業)	循環器疾患及び糖尿病、COPD 等 の生活習慣病の個人リスク及び集 団リスクの評価ツールの開発と 応用のための研究	清水悠路
2022-24	研 究 分 担 者	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金 助成金) 基盤研究C	非糖尿病患者の筋肉・体脂肪分布 量と個人内血糖変動等の糖代謝 に関する地域疫学研究	高田碧
2022-24	研 究 分 担 者	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金 助成金) 挑戦的件研 究(萌芽)	サルコペニア・プレサルコペニア と心不全に関する横断並びに縦 断研究	高田碧
2022-24	研 究 分 担 者	厚生労働科学研究費 補助金(循環器疾患・ 糖尿病等生活習慣病対 策総合研究事業)	国民健康づくり運動の推進に向 けた飲酒の社会的影響に関する エビデンスの創出	高田碧

研究 期間	研究者 種類	研究班の分類	研究班の課題名	氏 名
2023-25	研 究 代 表 者	科学研究費助成事業 若手	災害が心身の健康に及ぼす長期的な影響と発症予防に寄与する要因についての疫学研究	吉田知克
2021-	研 究 代 表 者	ファイザーヘルスリ サーチ振興財団 科学研究費助成事業 若手	東日本大震災前後の発達障がい及びストレス障がいの長期推移とその要因に関する疫学研究	吉田知克

2. 府外活動

大阪府外の市町村・大学・企業等と連携し、健康づくり支援、人材育成等を以下の通り行っている。

名称	主催者	日程	参加者
令和5年度開学記念行事 進路支援セミナー「職場での体験談等（経歴や仕事のやりがいなど）」	石川県公立大学法人 石川県立看護大学	R5. 5. 29	本田瑛子

3. 学会発表

健康増進の普及活動のための研究に加えて、各種研究班の活動に参加、従事した成果を学会で発表を以下の通り行っている。

学会名	日程	発表内容
第84回日本衛生学会総会	R6. 3. 6-9. 鹿児島	成人男性における高血圧発症予測因子としての身長検討
第84回日本生理人類学会総会	R5. 6. 17. 福岡	高齢者における動脈硬化と身長低下の関係
第82回日本公衆衛生学会総会	R5. 10. 31-11. 2. 茨城	非糖尿病者におけるHbA1cと身長低下との関係
		特定健診受診者における喫煙と身長低下との関係
		大量機会飲酒を考慮した、飲酒と循環器疾患との関連：The Japan Collaborative Cohort Study. ※最優秀口演賞受賞